



健康寿命延伸!!

西小鹿健康サロン

「健康寿命を延ばす 美し^よく 和やかに」をテーマに活動する西小鹿健康サロン（世話人 山本邦彦さん 会員数20名）。西小鹿区高齢者の集いの場となっています。認知機能の維持向上を目指し、皆で仲良く和やかに健康づくりに取り組んでいます。

「まずは自分自身が元気であること。そしてできることに取り組んでジグに貢献していく。そういう高齢者の集まりにしたいと思っています」と世話人の山本さんは言います。山本さんは6ページの「話を聴かせて」にも登場。三朝はもとより今の日本に対しての熱い想いを語りました。

三朝町社会福祉協議会広報誌

福祉みささ

第205号

2023年11月1日

じぶんの町を

良くするしくみ

赤い羽根共同募金

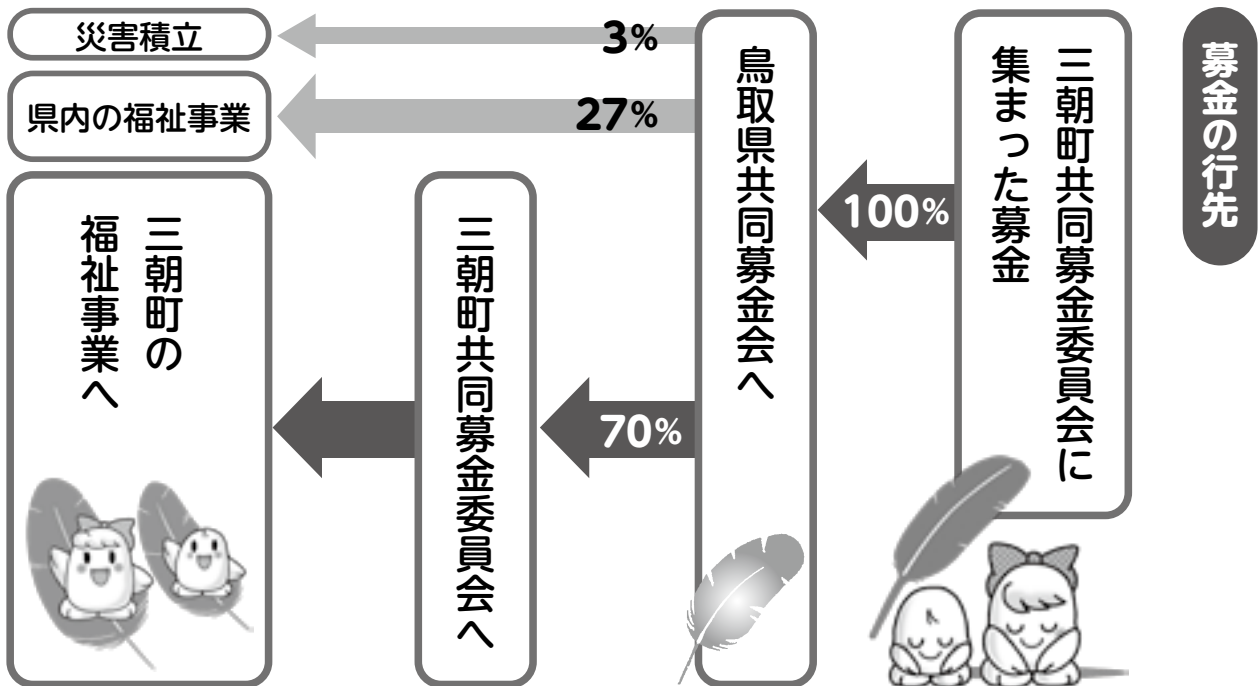
町民・各法人の皆様には、毎年共同募金運動にたくさんのご協力をいただき、ありがとうございます。

今年も赤い羽根共同募金運動を行っております。この運動を一言で表すと「じぶんの町を良くするしくみ」です。

私たちの暮らす三朝町で集まった募金は、約70%が町内で行われる福祉活動の支えとして役立っています。残りの約30%は県内の活動に活かされ、その一部は災害時ボランティア活動の準備金として積み立てられます。もしも三朝町で大きな災害があったときには、全国から応援が届く仕組みになっています。

12月1日からは歳末たすけあい募金も始まります。

共同募金運動で皆様と一緒に三朝町を良くするべく、ご理解ご協力をお願い申し上げます。



老人クラブ 女性委員会畑作業



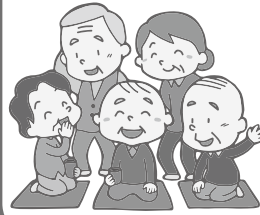
こども食堂 みんなの家



令和5年度 主な助成事業

福祉団体助成

老人クラブ連合会や身体障害者福祉協会等の町内各福祉団体へ活動費を助成。



ボランティアグループ助成

健康づくりやサロン活動、こども食堂を行っているボランティアグループへ活動費を助成。



福祉教育推進助成

保育園や小中学校の福祉活動、環境活動やふれあい活動の活動費を助成。



福祉みささぎ発行助成

本誌も赤い羽根共同募金の助成を受けて発行しています。



県社協会長表彰受賞

8月31日、倉吉末と片柴の「みとくぐり」を中心にて令和5年度県民総合福祉大会が開催されました。その中で三朝町から下西谷の「下西あつたか元気塾(代表者：中本壽賀子さん)」が鳥取県社会福祉協議会長表彰 ボランティア団体功労を受けました。

予防を主目的に2週間1回、三朝温泉病院リハビリ考案の体操を長く続けています。

みとくぐりの会、森嶋さんは「みんなので支え合いながら、楽しく活動を続けてきました。これからもみんなとながりにながら、一歩ずつ少しずつ前進していきたいと思えます」と言います。社は住民皆さんの活動を支援していきまます。この度は受賞おめでとうござい



下西あつたか元気塾

塾は下西谷の高齢者の交流・健康づくりの拠点としてウォーキングや役場国際交流員との交流、料理教室等に取り組んでいます。みとくぐりの会は片柴の高齢者の介護

いきいき元気サロンだより

▼お出かけも実施しています。写真は米子駅がいなロード見学の様子。汽車が行きかう様子を見ることができました。



▲定番となった三朝温泉病院 理学・作業療法士講座は今年度も大好評でした。

今後の日程

小鹿地区	三徳地区	三朝地区	高勢地区	賀茂地区	竹田地区
10/31(火) 賀茂地区と合同	11/6(月)		11/8(水) 竹田地区と合同	10/31(火) 小鹿地区と合同	11/8(水) 高勢地区と合同
3/5(火) 高勢地区と合同	2/29(木)		3/5(火) 小鹿地区と合同	3/7(木) 竹田地区と合同	3/7(木) 賀茂地区と合同

社協の人財

インタビュー



総務係
生田 智史

・所属と勤務年数を教えてください。

総務課総務係に所属しています。入職5年目です。

・具体的な仕事内容を教えてください。

法人会計の担当者として、日々のお金の管理から取引業者への支払、職員の給与や福利厚生、決算業務など幅広く携わっています。また、ふれあい配食サービスなどの地域福祉事業や、障がい者団体の事務局担当者として会員の皆様の活動を裏方として支える仕事なども行っています。

・仕事におけるやりがいは何ですか。

会計業務は裏方的で、なおかつ合っていて当然の世界。なかなか陽の当たらないポジ

ションではありませんが、法人運営において崩れてはいけない根幹でもあり、その部分を担当していることをやりがいと感じながら業務にあたっています。正確性の担保は勿論ですが、上辺だけの管理ではなく、数字から問題点など見つけ出す力をつけることが今後の課題です。

・目指す理想像を教えてください。

やはり人と触れ合う機会の多さが社協の仕事の魅力だと感じます。業務を通じて地域の方とつながり、関係性が広がっていくことを実感しています。入職から年数は経ちましたが、その間コロナ禍もあり、地域住民の皆様と関わる機会も十分にはありません。至っています。そんな中でも、普段から職場の諸先輩方の業務から所作を見習い、自分のものにしようという意識は持ち続けています。そして、いつかはそこに自分の「色」を加え、地域の中にとっぴりと溶け込んでいく、それがいい思い描く理想像です。

第31回 三朝町福祉大会

三朝町社会福祉協議会 法人化50周年記念

三朝町社会福祉協議会法人化50周年の節目に、地域支え合いについて考え、その本質を理解し更なる取り組み強化に向けた機会にするとともに、多年にわたり社会福祉の発展に功績のあった方々への顕彰を行うことにより、三朝町の社会福祉がより一層充実することを目的として開催します。

日時 令和5年11月23日(木・祝日)
13:30～16:00

会場 三朝町立福祉センター

テーマ 地域支え合いの今とこれからを考える

内容 基調講演

講師 ご近所福祉クリエーター
酒井 保氏

鼎談

登壇者 ご近所福祉クリエーター
酒井 保氏
三朝町長 松浦 弘幸氏
三朝町社会福祉協議会 会長
岩本 美樹

講師

1961年 広島生まれ。知的障がい者施設職員、社会福祉協議会職員、認知症グループホーム・小規模多機能施設の施設長職を経て、2014年8月に「ご近所福祉クリエイション」を創設(主宰)。地域支え合いやボランティア活動、介護予防・地域包括ケアなどをテーマに全国を講演行脚・執筆活動を行っている。イラストレーターとしても活動中。



ご近所福祉クリエーター
酒井 保氏

主な著書

- ▶「見守り活動」から「見守られ活動」へ [CLC発行]
- ▶元気を生み出す！ご当地サロン／新しい総合事業大見本市 [CLC発行]
- ▶生活支援コーディネーターと協議体(マンガ・イラスト) [CLC発行]



三朝町長
松浦 弘幸氏



社協会長
岩本 美樹

《寄付紹介》

「ありがとうございます」
「ありがとうございました」

◆香典返し寄付者

大瀬 福田 茂樹様(故八重子様) 金一封
 芴賀 中村 勝彦様(故介昭様) 金一封
 本泉 井之上順二様(故史郎様) 金一封
 恩地 岩本 和幸様(故三郎様) 金一封
 本泉 岸本 武様(故守様) 金一封
 三朝 小松 佳子様(故文明様) 金一封
 本泉 平井 孝也様(故好榮様) 金一封
 三朝 松原 弘文様(故悦子様) 金一封
 鎌田 故小谷美佐枝様 御親族様 金一封
 神倉 小椋 照三様(故照江様) 金一封
 吉田 竹部いづ美様(故勝美様) 金一封
 西尾 朝倉 正弘様(故修様) 金一封

◆一般寄付者

今泉 高野貴美代様 (地域福祉のために) 金一封
 東京都 住江 清様 (地域福祉のために) 金一封

※寄付者及び寄付金額の記載は、寄付者(ご本人)の了解をいただいています。なお、金一封の記載は金額の多少に関わらず、寄付者のご本人の意思によるものです。

話を聴かせて



西小鹿
山本邦彦(法名:邦道)さん
(80歳)

—西小鹿健康サロンについて—

認知機能向上を目指し、西小鹿高齢者の健康づくり・交流の場となっております。高齢者が元気でいて、ジグの留守番役として集落や地域に貢献できる存在でありたいと思います。生涯現役の気持ちで何歳になっても学びの心を忘れない、そして学んできたことを若い人たちへ伝えていく。社会、地域の中で役割をもってハツラツと、仲間を思いやって生活していく。そんな高齢者でいたいのです。

—思いやりがあるのが日本—

私たちがやっている健康サロンも、老人クラブも、そして社協も目指すところは地域における支え合いだと思います。その根底となるのが思いやりや理解し合う、譲り合う気持ちだと思っています。今の日本人にその気持ちが



西小鹿健康サロン eスポーツ体験

あるのか甚だ疑問に感じています。原因は戦後欧米から持ち込まれた個人主義の浸透です。欧米人が個人主義で生きることは否定しませんが、世界観も宗教観も違う日本人には合いません。「和を以て貴しとなす」が日本人の精神

です。これは「忖度して何も言わない」ではありません。自分の意見は言う、相手の意見も聞く、そして話し合う。こだわるところはこだわらる、譲るところは譲る。一緒に角をとっていき、美しい玉を作り上げる。それが和です。今の日本人の個人主義では角は取れません。それでも調整が必要となるので、そこで出てくるのが損得勘定です。出上がる物は信念のない、損得だけの代物です。

地域の支え合いは絶対必要です。しかし「和を以て」の精神が理解できない

と支え合いの構築は不可能です。社協職員をはじめ福祉関係者にはその意識を持って欲しいと思います。

—答えを求めて—

私は行政職員時代、教育と福祉に関わってきました。

教育は「人づくり」であり、すべての根幹だと思っています。「和を以て」の精神も思いやりも教育が重要になります。福祉は

「誰もが安心して暮らせる町づくり」であり、支え合い推進が大事です。

教育、福祉が目指すところは何か。それは「一人ひとりが幸せに生きる」だと思います。しかし、個人主義の「自分さえよければいい」という意味ではありません。人は一人で生きているわけではありませんし、一人では生きられません。人と関わりながら、人に助けられながら、人を助けながら生きていきます。それが社会です。

私は、どうすれば人が幸せに生きられるかを仏教に求めて定年後、出家しました。お釈迦様の教えにはいろいろなことが書いてあります。生涯、修行、勉強だと思っています。

—時代の流れなのか—

いろいろな場面で「時代の流れだから仕方ない」「これも時代の流れ…」とい

う言葉を聞きます。はたしてそうでしょうか。時代は自分たちで作るものではないでしょうか。私は青少年育成等さまざまな運動に携わってきました。その中で学んだことは、運動とは、たらいの水を回し続けることに似ているということです。最初は水の抵抗があつてなかなか回らない。しんどくても根気よく回し続けるとだんだん水が回り始めて回す手も勢いがついてきます。そうしたら、そっと手を離しても水は勝手に回っている。時代の流れも同じことが言えるのではないのでしょうか。流れに抗うのはしんどいけど、あるべき姿を求め続ける。それが生きるということではないのでしょうか。



三佛寺にて法話の様子